



第七十四回

松蔭寺と白隠禅師

駿河には過ぎたるものがふたつあり、  
富士のお山に原の白隠。



帯笑園や旧東海道の本陣跡の碑から三町(約三百メートル)ほど東。白隠の里として整備された趣のある小径をそぞろ歩くと、風情ある石瓦葺きの山門が迎えしてくれます。

国の有形登録文化財である山門を構える白隠宗大本山松蔭寺。弘安二年(一二七九年)に開創し、七百四十年の歴史を持っています。

また、世界的にも著名な禅僧「白隠慧鶴」が住職を務めたことでも有名で、地元では松蔭寺のことを、親しみを込めて「白隠さん」と呼びます。

白隠禅師その人は、松蔭寺にほど近い場所に生まれ幼名を岩次郎といました。小さな頃からお経に親しみ、15歳の時に松蔭寺で出家。全国を修行してまわり33歳で生まれ育った原に戻り松蔭寺の住職となります。

「大悟十八度、小悟その数を知らず」と、全生命をかけて禅の道を探求したばかりか、数々の画を用いて広く民衆に教えを説いてまわり、臨済宗中興の祖として後世に名を残し、五百年間出の偉人とまで仰がれているそうです。

白隠禅師は原の地で、ひたすらに後継者や民衆の教化につとめ「駿河には過ぎたるものがふたつあり、富士のお山に原の白隠」と謳われるほどになりました。

そんな白隠禅師が過ごした松蔭寺は、本堂が威厳と共に鎮座し、境内には市指定文化財「木造白隠禅師坐像」や県指定史跡の「白隠禅師墓」など歴史的価値が高い文化財が点在しています。

潮騒と松籟に囲まれた閑静なお寺に足を運ぶと、禅の覚えがなくとも、原が生んだ傑僧白隠慧鶴禅師の教えに触れ、心が洗われるような気がするでしょう。

◎観光戦略課 TEL 055・934・4747

(※)大悟十八度、小悟その数を知らず  
一度悟りを開いただけにとどまらず、大きな悟りは十八度、そして数え切れないほどの小さな悟りを開いたと記しています。



©NUMAZU City Office

広報めまづ 2019年4月1日号 No.1595 <https://www.city.numazu.shizuoka.jp/>

広報紙に関するお問い合わせ、ご意見・ご感想は〒410-8601 沼津市役所 広報課までどうぞ。

■TEL 055-934-4703 ■FAX 055-935-1560 ■メール kouhou@city.numazu.lg.jp

この広報紙は、再生紙を使用しています。市政テレホンサービス(TEL 055-932-1000)もご利用下さい。

静岡県指定有形文化財  
白隠禅師筆 東嶺圓慈賛「白隠自画像」松蔭寺蔵